

令和4年度

1月定例教育委員会

会 議 録

(公開)

令和5年1月17日



## 1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第22号」「議題第23号」「その他③」については、後日公表されるものであること、「議題第24号」は人事に関するものであることから非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

## 2 前回の会議録の承認

教育長から、令和4年度12月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ出席者全員で異議なく承認した。

## 3 議 事

### ◎ その他① 宮崎県社会教育委員会議の提言について

#### 生涯学習課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

#### 教育長

この件に関して、御意見御質問等ありませんか。

#### 島原委員

大変素晴らしい提言書ができたと思います。いろんなキーワードも盛り込んでありますが、人生100年時代と言われる中、学んで働いて定年後ということではなくパラレルにいろんなことをいろんな段階で学ぶということがこれから重要になってくるんじゃないかと思います。時代の変化に合わせた良い考察がされていると感じました。リスキングと言われていますが、そういった場を民間と協力して作っていくというのがますます重要になるんじゃないかなと考えております。そのために、生涯学習というこれまで取り組んできたことは大きな力になると考えますので、この提言書を元に具体的な展開が図られることを願っています。

#### 生涯学習課長

委員がおっしゃられましたように、学ぶことの重要性がこの提言にいろいろ示されており、子供からお年寄りまで、学びの視点から社会教育を考えるという立場で書かれておりますので、ぜひこの提言書と委員の意見を踏まえながら、関係者への説明に当たっていきたいと考えております。

## 柳委員

私もこの提言、よくまとめていただいていると思いました。

特に提言1で、地域学校協働本部の整備とコミュニティスクールとの一体的推進が重要ということがこれまでも言われていましたが、コーディネーターが必要とすごく感じておりますので、地域学校協働活動推進員の育成を図るところをしっかりと銘打ってらっしゃるのは、さすがだなと思いました。

提言2の学びを広げるところで、「一生に繋がる学び」として、手段の多様化、社会教育施設の活用促進ということが挙げてありますが、特に高齢者の方々は今の時代では大事にするというよりも、長生きしていただくためには働いていただく、いろんな活動に参加していただくことが大事かなと思っています。その上でも、一生に繋がる学び、例えば民生委員さんが少ない、なり手が無いと言われてますが、例えば講座の中に民生委員さんの役割を設け、なってから講座を受けるのではなく、そういうものも講座の中に入れると、興味がある方がそれを受けて、自分も民生委員をやれるかもしれないという気持ちになるのでは。そういう意味で、いろんな方々がいろんな手段で学べるという視点もすごく大事だなというふうに思ったところです。

また、家庭教育への支援や、共生社会、いろんな人たちがみんな支え合う社会を目指すというところがとても大事な部分になりますので、この提言書をぜひ広めていただきたいと思います。そして、皆さんがそれぞれの立場で自分事としてとらえ何ができるか考える機会になっていけばいいなと読ませていただきました。

## 生涯学習課長

今言われたことは非常に大事なことばかりであると思います。コーディネーターに関しては、市町村の皆様の努力によりまして、御理解いただいているところです。また高齢者の公民館講座等につきましては、市町村と連携しながら学びの提供の支援を行っていきたいと考えております。家庭教育支援、共生社会、どれも大事なことなので、鋭意努力して参ります。

## 松山委員

私も「連携・協働」が大事と思って読ませていただきました。この中で地域学校協働本部の整備、及びコミュニティ・スクールとの一体的推進が重要であるとありますが、これは人材の問題や活動の負担を考えると必要性は高いと思う一方、何年か前の県外視察の際、一緒にやる場合のすみ分けの仕方や、活動目的の違いもあり推進がすごく難しいという話を聞いたことがあります。現状

運営している中で困難な点があれば教えてください。

### 生涯学習課長

一体的推進で困難なのは、やはりコーディネーターの育成です。地域学校協働本部の一員として、また、学校運営協議会の一員としてどちらもこのコーディネーターを育成するという視点が大事だと思っているのですが、市町村によって実態は異なりますのでうまくいっていないところもあります。そこで各教育事務所のアドバイザーが訪問し、地域や学校の体制づくりに携わる取組を行っています。更に各地域を私どもが回って、地域の実態に応じた体制整備として絆推進委員会というものを立ち上げております。この会をとおして一体的推進に取り組んでいます。まだまだのところもありますので、これから更に努力していきたいと思っております。

### 松山委員

アドバイザーや絆推進委員会に関して、とても必要な視点だと思います。地域で積極的に活躍されている方の視点と、中立的な立場の両立が必要です。できる限り中立的な立場で運営に関与できるように進めていただけるといろいろな事情も含めて積極的に進めていくことができるかなと感じます。

### 生涯学習課長

大変ありがたい指摘ありがとうございます。絆推進委員会は今おっしゃったように、行政の方、地域住民、学校関係者、いろんな方を委員にしながら進めているところですので、来年度も引き続き、県民総ぐるみで推進していきたいように改善していきたいと考えております。

### 高木委員

提言1のコーディネーター、このコーディネーターの育成というのは非常に大事です。安定した育成、財源も必要なのかもしれません。人材の確保とはその場その場のことではなく、推進員になった方が経験を積んで蓄えていくことでネットワークづくりは実りあるものになるのではないのでしょうか。そういった意味では安定したコーディネーターの育成も大事だなと読ませていただいて思いました。また、学びを広げるという意味では、学びを止めないという表現がよくありますが、個人的には止まってもいいと思っております。現実には学びができないいろいろな個々人の事情がありますが、そういったときに止まってもまた始められる、流れに乗り直せるものが良いと思えました。あと、提言3、気づくというのはとても大切なのですが、気づいて、そこから何をするのか。共生社会を構築するには違いに気づいて、どう共生するのかが大切で、違いがわかっただけで

はなく、それを乗り越えて何を目指していくのか。地域の共生社会とは、みんながお互いの課題を乗り越えて認め合って、何を作りその地域らしくあるのか、そこが今問われています。そういった意味でこの共生社会の構築というのは、非常に大切だなと思いました。

### **生涯学習課長**

まず1つめの安定した財源ということですが、このコーディネート推進に関しては国の補助金を活用させてもらっており、既にたくさんの市町村に活用いただいています。更に推し進めていきたいと考えております。学びを止めないというお話もございましたが、この学びのためのハンドブックとして好事例集を作りたいと考えているところです。最後の共生社会につきましては大変難しいところですが、これも宮崎ならではの発信ができればいいと考えております。

### **木村委員**

私も提言を拝見させていただき、社会教育の実現には地域住民の参画が必要だと感じました。提言1にも地域学校協働本部やコミュニティスクールの設置が重要とあり、現在県内の小中学校、県立高校にも設置されていると思いますが、地域によっては地域と学校の協働や連携がうまくいっているところと試行錯誤中のところがあるのではないかと思います。推進のためには市町村の枠を超えた意見交換や研修が必要だと思いますが、そういったものが行われているのかをお聞きしたいです。

### **生涯学習課長**

おっしゃるとおり地域差が少しずつ出ております。教育事務所単位で研修会を行っており、お互いのいいところをワークショップをとおして学び、県内一律に推進できるよう努力しております。今後更に提言を活かして、尽力していきたいと考えております。

### **柳委員**

提言2 学びを広げるの(3)読書県づくりについてですが、具体的な方策を挙げていただいて日本一の読書県を目指していますよね。子どもたちから大人・高齢者まで日本一の読書県を目指していることがもっと浸透できると思います。例えば県立図書館や市町村の図書館もすごく魅力ある図書館づくりをされていると思いますが、若い人の意見や本が読みたくなる意見も集約し、図書館が本当に魅力的なところなんだとアピールできると思います。私自身も図書館が好きで高校の時よく行っていました。皆さんが読書県だよなとうれしそうに話せる雰囲気作りができるといいのかなと。そうなるよう

に何か力を合わせられるといいなと思いながら読ませていただきました。

### **生涯学習課長**

「読書県みやぎ」づくりということで鋭意努力しているところですが、11ページの読書県づくりにありますように、具体的な方策として、シンポジウム、読書サポーターなどの面で努力しているところです。県立図書館につきましてはさらに魅力ある図書館づくりが必要だと思っております。

今年開館120周年ということで、様々な取り組みをいたしておりましたが、さらに今後もたくさんの方が来ていただくような図書館を図書館協議会等とも協力しながら進めて参りたいと思います。

### **島原委員**

私も日本一の読書県について一言、言いたいと思います。知事が日本一の読書県についておっしゃっていたので、なんとしても推進していきたいと考えています。中々図書館に足を運ぶことが行われていないように思えますので、もっと本に触れる機会をたくさんつくる必要があるんじゃないかと思います。町中でも、企業や家庭の中でも推進していくための環境を作っていく必要があるんじゃないかと思っていて、例えばサポート企業を中心に企業の中に小さな読書スペースを作るなど、何かほかの県と違ったことを取り組んで宮崎県は読書県日本一だと言えるものを何か掲げて進めていただければと思います。

### **生涯学習課長**

言われましたとおり、打って出るということが求められていると考えております。今の提案のとおりアシスト企業には様々な企業が登録いただいておりますが、企業内での読書推進を含めて地域においてどのように地域住民に本を届けるかということも含めて今後検討して参ります。

### **島原委員**

デジタル化、ネット環境の発達は悪いことではないのですが、だんだんリアルの中で本当の書物、本を読むことからかなり離れてきている感じがします。インターネットやスマートフォンの利用が進みすぎることの弊害は最近いろいろところで言われていますが、リアルの中で実際の本に触れる場をきっかけに少しその流れを修正できるようになればと願っています。

### **生涯学習課長**

私どももリアルで本を読む、実際に手に取って本を読むということを大切にしていきたいと考えております。いろんな施策があると思いますが、努力して参

ります。

**教育長**

よろしいですか。

それでは、この件については、これで終わります。

**◎ その他② 令和4年度県及び全国体力・運動能力、生活習慣等調査結果について**

**スポーツ振興課長**

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

**教育長**

この件に関して、御意見御質問等ありませんか。

**高木委員**

本県の、全国平均を少し下回る項目の割合がどんどん多くなってきています。県教委として、なにか原因として考えられるものはありますか。おぼろげな状態でも、何かそう感じる部分があれば教えていただきたいです。

**スポーツ振興課長**

本県特有の課題、子どもたちを取り巻く環境というところまではなかなか分析ができていませんが、小学校、中学校、高等学校におきましても、運動部活動に加入している子どもたちが減少傾向にあるということが一つあるかと思えます。

また、それぞれの種目でいきますと、握力やボール投げというのは明らかにボールを投げたり取ったりする動作が結果を伸ばすことに繋がっていきますので、公園でボールを使えなくなっているなど、そういうところも以前と比べて課題の一つに繋がっているのかなと思います。

シャトルランはいわゆる持続的な力になりますが、どこの学校も行事の精選で、持久走大会や駅伝大会がなくなったり縮小されたりしています。持久走大会はやっているのですが、以前に比べきつuitことを極力させないようにすることで距離が短くなったりしており、そういうことも課題としては見えるのかなと感じております。

ただし、何か数値的に分析をしたものかというところまでのものはございま



せん。

県としての課題はこの3種目にとらえていますが、各学校での課題もあるうえ、各個人の課題もあると思いますので、そういったところをしっかりと分析しながら、学校の中でどう取り組むのか、個人としてどんな取り組みを推進するのか、そこを大切にしながら、子どもたちの体力向上に取り組んでいきたいと考えてるところです。

### 高木委員

非常に素晴らしい分析をしていただけていると改めて感じました。コロナ禍も悪い後押しをして、コロナの感染がひどい時は校庭でボール投げをしちゃいけませんなど校庭で遊びができない時期もありました。これは致し方ないことですが、今後コロナはアフターになるのかウィズなのか、今のところはウィズに行くのだろうと思います。

今言われたいろんな分析結果から、体力向上のために学校でできることの限界は明らかで、子どもたちの体力が低下していくことの問題点は何だろうかということをもう少しご家庭や地域と考えなくてはなりません。学びにも繋がってくるし、体力がないというのは持続力がないということにもなっていくし、体幹が弱いということにもなっていくでしょうし。

また、学校教育だけではなく幼児期からも含めて、生涯学習とも連携していく部分なのかなと思いつながりながらお話を伺っていたところでした。

### スポーツ振興課長

スポーツ振興課では報告書を毎年作成しておりまして、この報告書の後半部分で実践事例集等を掲載しております。そういった実践事例集等をどんどん増やしていき、各学校で取り組みやすい、取り組みたいと思えるような参考資料にしていきたいということで今工夫改善を加えているところです。そういった取り組みを通して、さっきも言われましたけど、家庭の啓発、今は1人1台端末がありますので、その動画を見ながら体を動かすということもできます。長座体前屈の結果が良くなった要因の一つはこういったところではないかなと思います。

コロナ禍においても、そういった今ある教材等をうまく活用しながら、日常的に子どもたちが運動することができる、そういう形につなげていけたらと考えているところです。

### 木村委員

今、高木委員もおっしゃいましたが、学校だけでなく家庭の中で体を動かす

ことは、子どもたちにとってとても大事だと思います。私たち保護者などの働く世代も運動して、子どもたちに運動は楽しいということを伝えることが大切です。ですが、周りを見ると仕事が終わって、運動する人達も少ないと思います。そういった世代にも啓発されたり働きかけをしていただきますと、子供たちも自然にスポーツなどに親しんでくれるのではないかなと思いました。また、子どもたちの肥満について小学生等を見ていると気になる部分もございますので、その防止にもなるのではないかと思います。

### スポーツ振興課長

本課に生涯スポーツ担当という担当があります。ここでは現在働き方世代また子育て世代を対象にした運動プログラムを提供する事業を行っております。その延長線上に、各市町村にスポーツ推進委員という方がいらっしゃいますので、そういった方々とおした取り組みも進めています。

また、先ほど報告させていただきました全国体力運動能力調査、実は大人の調査も各市町村で実施をしております。案内もしているのですが参加される方が少なく、情報が伝わっていない部分もあるかと思っておりますので、そういったことも含め、健康に生活するための体力の必要性、運動の必要性、そういったことを子どもの世代からしっかりと身につけさせ、大人になってからも継続できる。そこが一番大事なところだと思いますので、そういう視点で私たちも、学校体育担当と生涯スポーツ担当で連携しながら、今後も進めていきたいと考えています。

### 島原委員

この体力や運動能力は、最終的にはウェルビーイング、健康に繋がるということの関連づけがしっかりされる必要があるんじゃないかなと思います。今、学校での健康診断の結果とか、それぞれが個人的なものを出さなくても健康と運動習慣がどういうふうに関連付けられてるのかというクロス分析みたいなものがされて、健康意識に繋がるというようなことが、大事なのではないかなと思います。

私は健康オタクなので健康に関することは何でもやるのですが、最近の傾向として、筋トレ、フィットネス、ストレッチング、そういった個別に健康状態を作り出すっていうのがもうネット上でも大流行ですけども、そういったことが必要なのかなと思いました。体力測定はずっと経年的に比較しないといけないからこの項目ですけど、これはどう健康に繋がってるのかなっていうのも、考えながら、測定をしてそれと関連づけることが必要なのかなと思いました。シャトルランが持久力ということでしたけど、瞬発力や持久力などスポーツに必要な能力

をこれで本当にわかるのかというのも考えながら見ていました。ボール投げというよりは、例えば、上体起こしや腕立て、スクワットが何回できるみたいなことの方が正確に出るのかなとか、思ったりしました。

### スポーツ振興課長

この体力テストの項目につきましては、全国の調査に合わせて県の調査も行っておりますが、実は全国調査も以前から変更されてきております。子どもたちの体力の状況を把握する方法は徐々に変わってくるものと思いますので、その辺りも含め、全国の状況等も見ながら県の調査も実施していきたいと思えます。また先ほど委員が言われましたように、最終的には健康、体を維持・保持するところとの関係をどう理解するかということが重要になってきますので、体育と保健の授業の中でしっかりと取り組んで参りたいと考えております。

### 高木委員

健康であることは大事で、体力があることは健康であることにつながります。なぜ体力はあった方がいいのかは特に小学生低学年に伝えるべきですが、その辺は既に学校で一生懸命取り組まれていると思いますので、改めてご家庭でも、地域でも、健康であることの意義というのは、もう一度私たちが訴えていく。健康であることは、個人の幸せだけではなくて、周りのお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんも喜んでくれる。健康であることは幸せだということ、もう一度確認する、特に低学年は元気であるとみんなが喜んでくれるよっていうところから、体作りに繋がっていくのではないのでしょうか。

この階に上がってくるのも、エレベーターを使うより階段で上がるとか、ちょっとしたことが実は体力づくりだったり、わざわざ取り組まなくても、あそこまで歩こうとか、買い物も車で行かずちょっと歩いていくと景色が違うねとか、そういう身近なところに、健康づくりは転がっているのではないのでしょうか。健康は自分だけのものじゃないってことを特に小さい頃から伝えていけたら、生涯にわたって健康を意識した子どもたち、青年になってくれるんじゃないかと思えました。

### スポーツ振興課長

実は昨年度の報告書の後半、実践事例集の最初の方に、なぜ配慮が必要かという項目がありまして、この一番下に豊かな生活を送ることができるよってなるというような内容が書いてあります。ただしこれはあくまで資料として書いてありまして、これをどれだけ各家庭までお届けするかということが重要になってきます。方策を本課だけではなく、生涯学習課等の家庭との連携や地域と

の連携をしている課と協力しながら進めていくことが必要かと思っておりますので、そういった視点で進めさせていただこうと思っております。

### **島原委員**

健康のために必要な要素として、食事とスポーツと睡眠がベースにあるというのはもう皆さん知っていると思うのですが、残念ながらデータを見ると、睡眠時間も少しずつ下がってきていますし、それから最近の若い人の傾向として朝食をとらない方もかなり増えてきていると思っております。食事と睡眠をしっかり取らないといけないことを啓発していただくことが重要と思っております。

### **スポーツ振興課長**

現在、今年度の報告書の取りまとめを行っておりますので、そういった視点も含めて報告書の中で記載をしながら、各学校への取り組みにつなげていければと思っております。

### **柳委員**

先日、保護者の方とお話をした際、持久走大会のために、2時間目と3時間目に練習の時間がある学校の方と、うちはもうそういうのもなくて、いきなり持久走大会でしたというお話をされる方がいらっしゃいまして、学校では、コロナのこともあって、いろんな取り組みの違いが出てきているのかなと思っております。仕方ないことなのかもしれませんが、ウイズコロナの中でも、小学校は特に体育の時間はすごく子どもたちの体力向上に繋がっていく部分ですので、学校の方で体力向上プランをまた結果を受けて作られると思っておりますが、そのあたりでも、是非新たな目で作ってくださいなどと、言っていたけるとありがたいです。

私もこの話を聞いて、そんなに学校で違うんだなと改めて感じた出来事でしたのでお話いたしました。

### **スポーツ振興課長**

各学校では働き方改革の関係で、行事の精選に取り組まれているのですが、それが子どもたちにどのような影響を与えるのか、子どもたちにとってよい削減なのか、それとも良くない削減なのかというところですね。もし削減するのであれば、それに代わる取り組みとしてどんなことができるのかなど、そういう視点でしっかりと話し合っただきながら、業務に取り組んでいただくようにこちらの方も、小学校・中学校・高等学校の体育主任等を対象にしました研修会等を実施しておりますので、そういった場でもしっかりと学校にもお伝えしていきたいと考えています。

### 教育長

事故の未然防止、安全のためにも心拍数を上げるということも必要かなと思いますし、また先ほど御意見いただいておりますが、検査を受けた学齢の子どもたちは3年間、もっと言えば、入学時には学校が休校していた子どもたちです。ですから、部活動も最初なかなか紹介をいただく場もなかった、入部についても、ハードルの高かった子どもたちですので、これから取り返してほしいと思いつながりデータを見て思いました。

### 教育長

よろしいですか。

それでは、この件については、これで終わります。

## ◎ 次回会議の日程等について

### 教育長

それでは、次回定例会は、2月15日、水曜日、14時からとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。

(15:07)